

日本技術士会 原子力・放射線部会 活動の概要

2021年3月
原子力・放射線部会

原子力・放射線部会活動は...

- 部会員の活動の支援が第一。
～原子力・放射線部門の技術士として職場内外で活躍してほしいと考え、様々な活動をしています。
 - ① 社会に対する**情報発信**、**提言の場**の提供
⇒ 業務上の立場、観点を超えたより**自由な情報発信**が可能
 - ② 企業内での活躍や社会貢献のための**学びの場**の提供
⇒ 技術士としての**資質（コンピテンシー）の向上**

原子力・放射線部会活動は...

- 部会員の活動の支援が第一。
- ③ 技術士として活躍できる場（社会貢献）の提供
 - ⇒ 技術士の能力の社会への還元、認知度向上、存在感アップ
- ④ 部会員相互、他部会員、講演会講師、地域連携などの人脈形成の場の提供
 - ⇒ 業務だけでは得られない幅広い人脈とそれによる幅広い視野、技術力の獲得

部会目標と活動の全体像(1/2)

大目標

- ・ 技術士が社会で生き生きと活躍
- ・ 原子力界全体の健全化と社会からの信頼回復に貢献

中目標

「技術士＝信頼される技術者」ということを社会に定着させる
＝ 原放技術士のブランドイメージ（能力と信用）の定着

「専門家」としての、「人」としての「技術士」の在るべき姿を一人ひとりが明確に自覚する

- 個人の役割 : 技術士としての自覚
- ・ 『技術士』を知る（PEの特徴と期待、設立答申の期待、Competency）
- ・ 『自分』を知り、創る（自律的にデザインする継続研鑽）
- ・ 『技術士』を語り、見せる（アウトカムは個人から!!）

部会目標と活動の全体像(2/2)

● 部会の役割 : 職能集団としての役割

- ・ 目標と活動 2つの見える化 (活動をoutput ⇒ outcomeへ)
- ・ 学び直しの制度的な支援
- ・ 戦略的情報発信
- ・ 連携の橋渡し、仕組み作り

● 具体的な活動の柱

- ・ 人材育成 (社会貢献、学び直し)
- ・ 認知度向上 (社会貢献・制度的活用的前提)
- ・ 連携 (全ての技術士を覚醒させるために)

● 通奏低音 : Competency

- ・ 福島の実省 (住民目線、社会目線)
- ・ 安全文化醸成と技術者倫理 (公益確保)
- ・ 社会とのコミュニケーション

原子力・放射線部会の活動例（情報発信）

社会のニーズを考えた情報発信～求められる情報は何か～



月刊PE（月刊技術士）による情報発信

- 福島廃炉、オフサイトに関すること
- 安全文化、安全確保に関すること
- 部会／部会員の活動 等



⇒ 他部門の技術士へ
⇒ 社会へ
… 情報とメッセージ

2019年度以降の月刊PEによる情報発信

号	月刊PEタイトル
2019. 5	• 技術者倫理の講師が備えるべき能力・資質
2019. 7	• 原子力・放射線部門とSDGs
2019. 8	• 大飯発電所と訓練施設の現地視察 報告
2019. 10	• 社会から求められる原子力・放射線分野の人材とその育成
2019. 11	• 原子力界のコミュニケーションに関する一考察
2019. 12	• PE INTERVIEW（阿部氏）
2020. 12	• 原子力事業を取り巻く廃棄物問題について考える

原子力・放射線部会の活動（部会報）

部会員向け：活動紹介、考えてほしいこと等のメッセージ

メッセージを含めた
巻頭言

部会員の活動事例

度向上活動

原子力・放射線部会 部会報
2018年10月31日発行

公益社団法人 日本技術士会

原子力・放射線部会

http://www.engineer.or.jp/c_dot/nucrad/

会報

～原子力・放射線部門の人材育成に関して～

巻頭言 『原子力教育のグローバル化と技術士』

東京大学大学院
工学系研究科
原子力専攻 教授
上板 克



私は、東京大学において、原子力専攻(専門職大学院)に所属し、一般大学院である原子力国際専攻、放射線医家専攻の研究もやっています。また、バイオエンジニアリング専攻(分野横断型)を兼修し、学科は、18年前、旧放射線工学科・資源開発工学科・精密工学科(現在は途中廃れる)合同で設立したシステム創成学科環境エネルギーシステムコースに所属し、さらに1、2年生の教養学部では非常勤講師で1科目原子力入門講義を担当している。原子力国際専攻・原子力専攻では、IAEA と共同で、別々の Nuclear Technology Management コースを設定し、今後IAEAからも修士課程が実施されることになる。この一見複雑な構造が、今後の大学・大学院の在り方の模範のように思える。つまり、入り口は教養課程で広く、工学部が決まっても選択は広く、大学院で原子力と冠した教育と研究をやる。これでは専門性が不十分なので、専門職大学院など社会人教育が必要である。原子力のグローバル化に伴う原子力マネジメント教育は、一部に留まらず、国際連携で行う必要がある。その国際連携の上での社会人教育に、技術士の資格は重要と考えている。

会報

～技術士の認知度向上と技術士増に向けて～

巻頭言

『技術士＝プロフェッショナルエンジニアの力を発揮しよう!』

株式会社 東京建設コンサルタント
環境モニタリング研究所 技師長
日本技術士会副会長兼企画委員長
岩瀬 まさ



プロフェッショナルエンジニア (PE) は技術士の称号である。国際的な基準に2000年の技術(能力)第1版(現在は第3版)で示されている。日本では国際同等性を踏まえ、科学技術・学術審議会技術士分科会により「技術士に求められる資質能力(コンピテンシー)2014年3月」が示されている。ここでは、今後の科学技術イノベーションの推進にとって、高い専門性と倫理観を有する技術者の育成・確保が必要であり、そのためにも、専門的な知識・技能を身に付け、社会的責任を

大学・大学院への技術士制度説明会

S 幹事 井口 幸弘

技術士制度の認知度向上と技術士資格保有者の増員に向けて、2016年4月より、原子力関連の学部、学科、大学院の学生を主な対象とした技術士制度説明会を、学生ガイダンス等の場を借りて実施しております。



2018年3～4月には、別表に示すように、11大学を対象に12回以上の説明会を実施し、500名を超える参加者がありました。また、昨年度と比較

原子力・放射線部会 部会報第21号 ～技術士の自律とは何か～
2018年3月22日発行

原子力・放射線部会 部会報第22号 ～人材育成～
2018年10月31日発行

原子力・放射線部会 部会報第21号

公益社団法人 日本技術士会

http://www.engineer.or.jp/c_dot/nucrad/

会報

～技術士の自律とは何か～

巻頭言 『技術士(者)の自律』

日本技術士会
理事、倫理委員会委員長、部会会幹役
桑江 良明



当初は、原子力・放射線の分野で広くても技術士が広く活用されるイメージを抱いたが、残念ながら、現実はその期待に応えるものではなかった。要因として組織内外での技術士制度に対する認知度不足、具体的なインセンティブ不足などが挙げられるが、もっと根本的な要因がありはしないだろうか。

3年前に電気学会倫理委員会主催のシンポジウムで共インベナーとしてご一緒させていただいた京都大学伊勢田哲治准教授(倫理学・科学哲学)は、技術者の「自律」について以下のように整理された。

他律的規範である「法」はその性格上「後追い」とならざるを得ず、日々進展する科学技術による事故を未然に防ぐためには、技術に携わる者に自律的規範である「倫理」が備わっていないと十分な。これが技術者倫理の必要性についてのシンプルで分かりやすい説明の一つである。「技術者倫理の必要性」を説くことは

委員会活動

(1) 全体会議 実施報告

副委員長(情報発信) 藤田 昌治

平成30年6月15日、第14回全体会議が開催された。ご出席された方、出欠アンケートへの回答に協力して下さった会員の皆様へ、改めて御礼申し上げます。

今回の全体会議では、前年度の事業報告・決算と、企画検討の見える化や学び直しの実施、各地域で活躍の皆様との連携強化、認知度向上などを主体とした今年度の事業計画・予算・新体制(下図)の議案が示された。加えて、本部規約改正に準拠した部会長選任方法の見直し、会計幹事の刷新、全体会議における定数数の見直しなど部会規約の改正が部会員承認により取り行われた。(全体会議の議事録、部会組織、部会規約は部会HP参照)

その後、特別講演会に先立ち、人材育成をテーマとした意見交換会の中で、アンケート回答と集約状況を報告した。異論や自分の意見を積極的に取り入れてもらえたとの報告が予想より多かったが、おそらく未回答の方の意見には多くの課題が潜在していると推察する。

次回は第15回という区切りの全体会議となる。部会員の皆様には、引き続きのご支援、ご協力を願う。

平成30年度 原子力・放射線部会体制

(2) 特別講演会 聴講報告

「日本の原子力利用の課題と人材育成」

副委員長(企画運営) 芳中 一行

平成30年度の特別講演会には、同芳中副委員長を招き、「日本の原子力利用の課題と人材育成」をテーマに講演を頂いた。なお、事前に、部会では同委員長の講演の際に理解をより確かなものとするために、原子力委員会メールアドレスの情報のみならず、主要なものについて情報を提供した。皆さんは、目を通していただけたでしょうか? 未だの方があれば、ぜひ一読願いたい。

https://www.engineer.or.jp/c_dot/nucrad/topics/001/attached/attach_14523.pdf

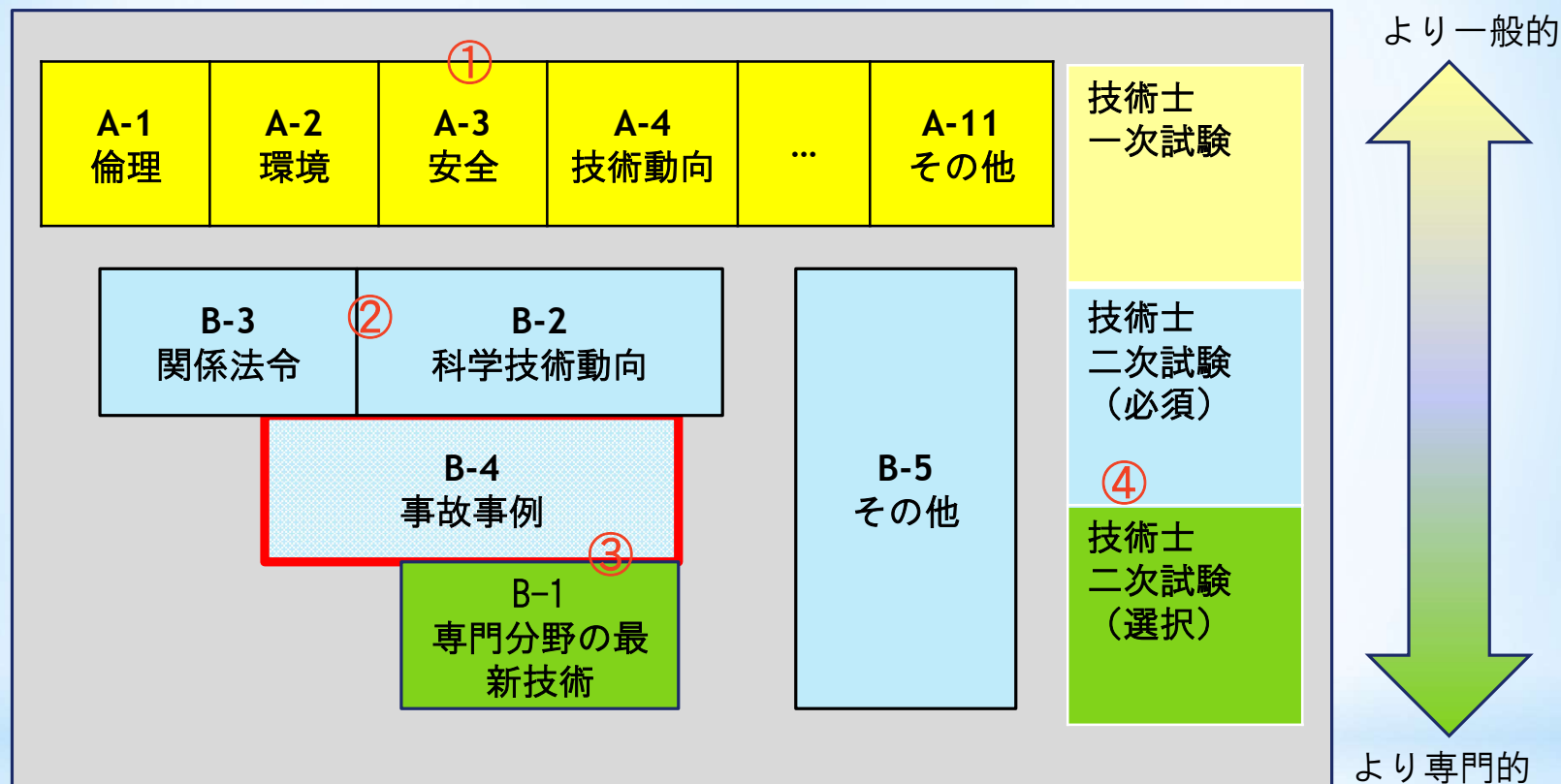
この企画では、狭義の「優秀な人材」に留まることなく、能力と誠実さを備えた信頼できる人材となるためにはどうすればよいかを考える、意識高揚の機会にするごを重視していた。以下に、講演の概要を紹介する。なお、講演資料、詳細な報告については部会ホームページを参照されたい。

https://www.engineer.or.jp/members/c_dot/nucrad/topics/005/005712.html

【講演の要旨】

原子力委員会の役割の中で「原子力利用に関する政策に関すること」を最上位に位置付けており、原子力利用の羅針盤としての役割を果たす。2017年7月、原子力政策大綱に代わるものとして「原子力利用に関する基本的考え方」を策定した。そ

原子力・放射線部会の活動（継続研鑽支援） 計画的な学び直し～何を学ぶべきか～



原子力・放射線部門技術士に求められるコンピテンシーを意識し継続研鑽を推進

- ① 一般と原子力の接点～連携を意識（安全、リスコミ等）
- ② 専門家としての理解が求められる時事問題（再稼働問題、廃止措置、規制（安全文化、検査制度含む）など）
- ③ 事故のことを忘れない、事故の本質～現場の状況／課題等を学ぶ
- ④ 技術士試験対策、解説とつながる魅力ある企画

2019年度以降の原子力・放射線部会CPD企画

実施時期	実施No	内 容	講師	
2019.6	特別講演	原子力の信頼とは 社会と技術の接点を見直す	JASTJ	小出 重幸氏
2019.7	第65回	原子力施設の自然災害対策について考える	防災研	藤原 広行氏
2019.9	第66回	原子力損害賠償法の改正と残された課題	法政大	高橋 滋氏
2019.10	見学会	六ヶ所・原燃サイクル施設		—
2019.11	第67回	高レベル廃棄物の地層処分に関する科学的特性マップ	NUMO	兵藤 英明氏
2020.1	第68回	J-PARC MLFにおける物質・生命科学研究の現状	JAEA	曾山 和彦氏
2020.1	見学会	リプルンふくしま（北関東地区）		—
2020.12 2021.1	第69回	放射線利用としての核融合	QST	鎌田裕氏

現場を見て学ぶ～平成28年度見学実績から～

福島第一

楢葉遠隔技術開発センター

東海第二発電所



別紙1 「東京電力(株)福島第一原子力発電所」見学会アンケート一覧
 主なアンケート結果 (寄せられたアンケートのうち、参加者より掲載の了解が頂けた方、お名前掲載の方は匿名としました。)

講演/見学の感想等	東日本大震災5年目の企画	告知/HP情報の不足等	会場/イン
ニュースなどで知ってはいたが、廃炉に向けた作業が実感できたことが良かった、廃炉まであと30年かかるというが、スケジュールができてきているのだろうか。	企画は節目として、行うべきと思う。福島第一原発の見学も有意義であるといえる。	人数制限の有無によって違うが、人数制限のないものについてはもっとPRしたほうが良い。	充分と思いま
例えば、鉄塔の倒壊は耐震NGではなく、上流からの土石流により足元をすくわれたからと聞いた。一般的な報告では耐震クラスが低いからという話になっている気がするが、このような教訓(具体的な原因・分析など)を他事業者やプラントの設計反映、情報共有が必要と思いました。	この活動を継続し、どのように改善してきたのかを次の5年、10年、15年としっかり見て伝えて行くのがいいと思います。	こういった企画をふやしていく。	特に無し
福島第一の見学: 廃炉技術も大変だが汚染水対策(除染、保管)に相当な資金を使っているという印象			
放射線に対するPR不足。			

整理番号 質問
 1 2号機はフローアウトパネルの開扉だけでなく、トラス部分の破損(ドーナツ部分の破損)によって圧力が抜けたんだと思いましたが違うのでしょうか。2011/3/15の朝のニュースで、「異音が生じた」と言っていたのを思い出します。昨日配られた資料に、2号機のトラス部分の水位が低いのも、破損のせいで溜まらないのだ(と予想されている)と見ました。トラスは格納容器の一部ですので、これが破損すると放射性物質は原子炉建屋に出て、さらに原子炉建屋からフローアウトパネルの開口部等を通して大気に拡散されることになりま

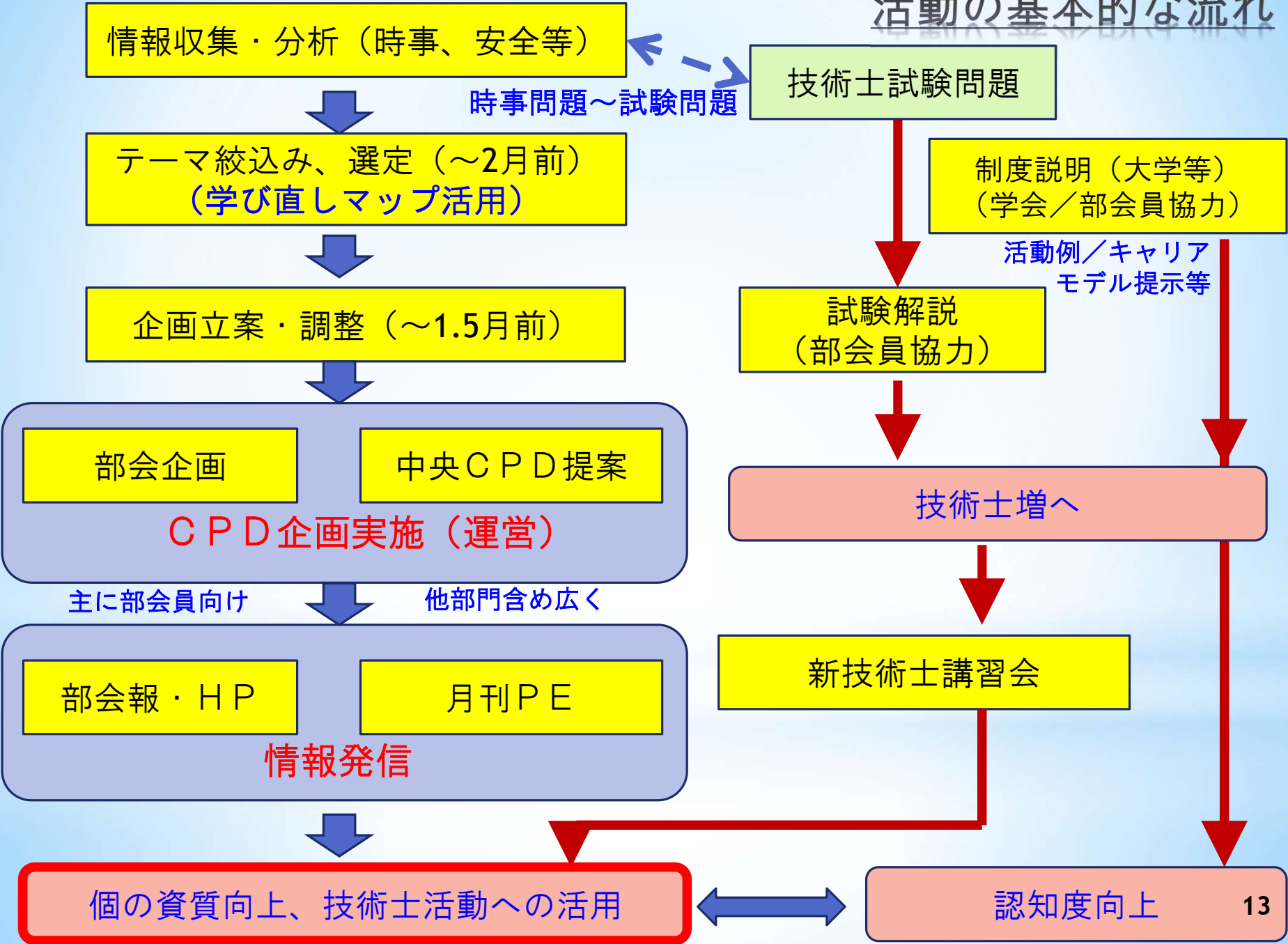
質問事項 (事前・追加) 検討・集計

アンケート集計・評価 次回企画への反映検討

http://www.engineer.or.jp/members/c_dpt/nucrad/topics/003/attached/attach_3275_6.pdf

http://www.engineer.or.jp/members/c_dpt/nucrad/topics/003/attached/attach_3275_2.pdf

活動の基本的な流れ



安全文化フォーラムディスカッション ～議論の深化を目指して（H27年度）～

第43回例会（講演と意見交換会）2015/1/16
「原子力産業界における安全文化醸成（活動）の状況（JANSI 浜田氏）」
第48回例会（講演と意見交換会）2016/1/15
立場の異なる4名の講演



- 言葉の定義、QMSとの関係、安全文化の測定、技術者倫理との関係、規制/事業者の関係等の多様な話題と意見の存在
 - 抽象論から具体論へ展開
- ⇒自由で継続的な議論の必要性を認識

【安全文化フォーラムディスカッション】

技術士資格を媒介⇒ 組織の垣根（規制/事業者/メーカ）を越えた対等、自由、継続的な議論を可能にする。

- 《メンバー》 技術士を中心に、問題意識を共有する者
- 《テーマ》 議論の過程で新たに設定（チェーンディスカッション）
- 《ねらい》 持続的かつ継続的に取り組むことで、問題意識を共有し、安全文化醸成に寄与する。
- 《対外発信》 自由な議論を阻害しないよう、その都度、発言者と相談し決定する。
- 《頻度》 さまざまな議論、数多く実施することを目標～年に4回程度

部門別コンピテンシーWG

～原子力・放射線部門の技術士に求められるコンピテンシーとは～
(H30年度)

- 技術士制度改革の意味を理解し、広く紹介するための検討を行う
- ・ 技術士制度改革の本質的意味の理解（コンピテンシー導入とキャリアプランの考え方）
 - ・ 原子力・放射線分野にとってのコンピテンシーの意義の理解



⇒ 大学生、技術士を目指す人、及び説明者（技術士自身）の理解を促す

2つのアプローチ

- 技術士コンピテンシー7項目+1
- ① 専門的学識、② 問題解決、③ マネジメント、④ 評価、⑤ コミュニケーション、⑥ リーダーシップ、⑦ 技術者倫理、⑧ 継続研鑽

- ① 制度改革の意味を説明するためのコンテンツの作成（標準説明資料、パンフレットの作成）
- ② 部門別コンピテンシーの作成：技術士コンピテンシーを、原子力・放射線分野における具体的な表現への翻訳と特徴的な項目の抽出

原子力学会:3月末、
大学説明会:4月初で活用



炉・サイクル・放射線関連の既存文書から、該当項目を抽出。5月中を目途にHPで公開

S幹事制度～特定案件の対応協力が可能（活躍の場）～ 〔役員と同等の情報を共有可能〕（応募制）

S幹事という名は当部会特有の俗称

⇒ Special、Support、Senior、Skype（地域との連携）…

役員^の職務を特別に補佐する部会員

より多くの部会員に活躍して欲しい～地方からでも参加しやすい
(制約のある個に対して活動し易さを提供する部会からの一支援)

下記^の他、部会と本部との連携を担う各種委員会の委員としての協力も可能

表-1 福島第一原子力発電所の廃炉について 原子力学会誌(アトモス)の記事のまとめ

No.	氏名	所属、経歴他	学会誌(神谷メモで要約ではない)
16	井上正	[ATOMOS] 外代表	2015(1月号)理事会だより学会の福島復興へ貢献する【背景】1Fの廃止措置は、かつて経験のない技術的な挑戦と許し、極めて長期にわたり継続される事業【課題】原子力分野の専門集団として「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」を組織し、委員長:宮野廣、副委員長:関村直人、岡本孝司)①廃炉の安全かつ円滑な実施に貢献②廃炉の安全かつ円滑な実施に貢献③新たな分野での知見
			増田尚宏, 67. パニー設立のミッションです。課題整理による汚染水の浄化、b)地下水バイパスの設置、c)タンク増設等、②使用済み燃料デブリの取り出し等、④国(原子力)の計量管理手法の検討「プロジェクトが設けら管理についての類似事例の調
			単位で計量管理する必要がある。②事故は、保障措置手法

S幹事活動例 1

企画検討に有用な学会誌情報の収集、独自の視点からの分析と、それに基づく講演会等の企画提案

S幹事活動例 2



試験制度説明会の準備、調整、運営への協力

学会連携に係る調整・協力

大学説明会の対応協力

試験制度説明協力

時事問題の情報収集、分析等に係る検討・提案等

原子力・放射線部会の活動（認知度向上／技術士増の取組み） ～大学説明の拡大、原子力学会ブース開設（H30）～

大学生、社会人それぞれのキャリアに応じて技術士をアピール

原子力関連学部学科・大学院への技術士制度説明会

▶ 13大学を対象に14回の制度説明会。約270名の参加者あり

No.	大学名	日付	時間	対象者	参加学生数
1	近畿大学	3/5(月)	15:00～16:30	3年生～大学院生(M1)	8
2	東北大学	4/3(火)	15:20～15:45	大学院生(M1)	50
3	東海大学	4/3(火)	-	学部1年生	37
4	〃	4/5(木)	-	学部2～4年生	120
5	九州大学	4/4(水)	14:00～14:30	大学院生(M1、D1)	30
6	東京工業大学	4/4(水)	16:45～17:00	学部1年生	40
7	京都大学	4/5(木)	11:30～11:50	大学院生(M1)	22
8	福井工業大学	4/5(木)	11:40～12:10	学部2～3年生	35
9	茨城大学	4/5(木)	16:00～16:30	学部1年生	93
10	福井大学	4/5(木)	16:25～16:40	大学院生(M1)	18
11	名古屋大学	4/6(金)	11:30～12:00 13:00～13:30	学部2～3年生 大学院生	40 20
12	長岡技術科学大学	4/9(月)	13:15～14:15	大学院生(M1)	12
13	早稲田大学	6/9(土)	13:40～15:10	学部、大学院生	13



大学での説明会の状況

原子力学会、春の年会（茨城大）でのブースの設置

▶ 社会人中心50名が立寄り。制度説明及び資料手渡し。

会合	場所	月日	対象者	参加人数
原子力学会 春の年会	茨城大学 水戸キャンパス	3/20(水)～22(金)	年会参加者 (社会人+学生)	3日間 合計50名 (社会人41+学生9)



学会ブースの状況 17

原子力・放射線部会の活動（認知度向上／技術士増の取組み） ～技術士に求められることは何かを考えたパンフレットの制作～ ～分かりやすいキャリアモデルと求められるコンピテンシー～

原子力・放射線部門の技術士として目指すもの

原子力業界の社会からの信頼回復に技術士として誇りを持って社会に貢献

- ・平時は、技術士個人の学び直し
- ・人材育成やコミュニケーション活動
- ・緊急時には、各分野の専門家を支援
- ・現地のプロボノ活動や後方支援

I. 安全文化醸成に資する活動

- 3.11事故の反省・教訓を風化させない働きかけ
- 安全文化の理解と促進、住民目線のリスクコミュニケーション

III. 部会員の技術士活動の支援

- 技術士の資質の維持向上(学び直し)のための支援
- 活動基盤づくり(連携、幹旋、活用)

II. 技術士増に向けた取組み

- 技術士の増を目指す
- 若い人達を育てる

IV. 広報活動

- 技術士の社会への認知度を高める
- 活動実績を伝える



コンピテンシーとは

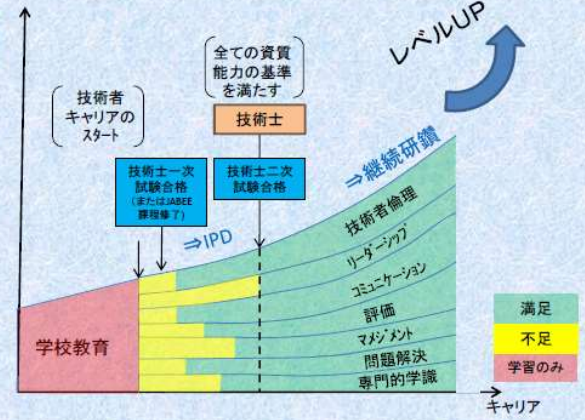
項目	要求される具体的能力
専門的学識	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門知識を理解・応用 ● 法令等の制度、社会・自然条件等に関する専門知識
問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ● 問題発生要因や制約要因を抽出し分析すること。 ● 解決策を合理的に提案、改善
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ● 要求事項の特性を考えた、人員・設備・金銭・情報等の資源を配分
評価	成果やその波及効果を評価
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用者、上司、同僚等との意思疎通 ● 現地の社会的文化的多様性を理解、協調
リーダーシップ	関係者の利害等を調整し
技術者倫理	<ul style="list-style-type: none"> ● 公衆の安全、健康、福利を最優先に考慮した上で、社会、文化及び環境に対する影響を予測し、地球環境の保全等、次世代に渡る社会の持続性の確保に努めること。 ● 関係法令等の制度を遵守 ● 自らの業務及び責任の範囲を明確にし、これらの責任を負うこと。



技術力だけでなく、人と社会のための研究者・技術者の業務に必要なことばかりだ。
 この資格の要件を満足するように、目標を立てて、日々業務に取組み努力していくと、いつの間にかその力が身についてくるはずだ。

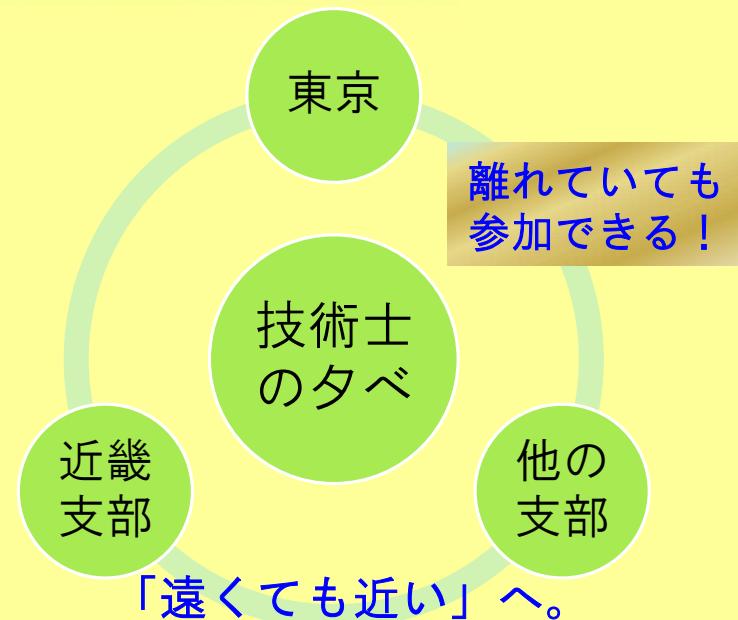
技術士試験の何が変わる

- 法律(技術士法第2条)は変わらないが・・・
- 試験がコンピテンシーを問うものになる
- 技術者のライフステージを5段階に分け、技術士をレベル3に据えた
- 可故、変わる
- 海外と同じ基準、海外並みの合格者(人数、合格年次、位置づけ)を目指す
- 年次: 合格者の平均年齢43歳⇒35歳 (成長の素質を問い、経験は後からでもよい)
- 位置づけ: 科学技術に関する高度な専門能力と技術者倫理を国に認められた最も権威ある資格(GOAL)からプロジェクトを任せられる優秀な技術者の証として、資格を活用するSTARTへ
- 人数: 日本約9万人、米国80万人、英/加/印: 各20万人



部会員とのコミュニケーションの充実

- 部会員、S幹事 ⇒ 役員会
 - ・部会員の役員会へのオブザーバー参加
 - ・部会員から役員会への情報提供
(例会テーマ/講師選定のための学会誌執筆者情報の整理)
 - ・S幹事からの情報提供
(関連学協会のシポジウム/WS等の情報の定期的な供与)
- 役員会 ⇒ 部会員、S幹事
 - ・WEB中継システムによる例会の配信
 - ・例会のストリームオーサー/カムタジアスタジオ収録、講演資料の掲載、詳細レジュメの掲載(会員サイト)
 - ・本部移転に伴いスカイプ導入予定
 - ・役員会もWeb会議の導入を計画
 - ・就職斡旋情報等の掲載、見学会情報等の限定掲載
 - ・アンケートのHP掲載や執筆者との個別コミュニケーション



(事例) WEB中継システムを利用した近畿支部からの「技術士のタベ」参加

部会が目指してきたもの（2つの見える化）

部会目標の見える化

ブランドイメージと個人のレベルアップ

- 個の力を示さないと技術士は増えない
- 技術士資格活用の制度化待ち⇒自らの活動による価値の提示・向上への意識改革⇒コンピテンシーの向上



技術士ブランド〔個の要素〕

- 高い倫理観を示せたか。組織に埋没していないか。
- 社会との接点があったとき、適確に状況を説明できたか。分かりやすく解説したか。（1Fの状況、施設の安全性等）
- 高等の専門的応用能力を示し複合的問題を解決する等により、組織内で存在価値を高めたか。
- 最新の技術、情報を学び続け、見識を広げ、深めたか。

あなたはできてますか？

さすが技術士！

部会活動の見える化

部会目標と今の活動の位置づけをつなぐ



〔部会活動は個の技術士の支援〕

- コンピテンシー向上のためのCPD企画全体構造の提示（学び直しマップ、CPD／情報発信の一体化）
 - 時事問題と個の活動に必要な情報に係るテーマ選定・学び
 - 時事解説＋姿勢／哲学を社会へ発信！
⇒技術士の価値の提示
⇒認知度向上
- 制度説明会等を通じた技術士増認知度向上の取組み等
…その先に技術士資格活用の制度化をみて…

技術士として求められていることは何か？

もう一度振り返って、共に頑張っていきましょう！

部門設立時（H16）の声より

- 職場の中で**高い技術力**、**倫理意識**を醸成（制度の有効性）
- 組織における高度な技術者として**国民の信頼を得る役割**
- **中立的な立場**で原子力・放射線を論評
- **社会的意思決定の場への参画**（中立的立場での情報提供する専門家）
- 安全上の解析書類の**審査・レビュー**、**検査・品質保証等**への関与 等

「今後の技術士制度の在り方について（H28.12.12）」〔科学技術・学術審議会 技術士分科会〕より

■ **技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）**

専門的学識、問題解決、マネジメント、評価、コミュニケーション
リーダーシップ、技術者倫理

■ **技術士としての資質能力を向上させるステージの技術者像** ←

- 専門分野：豊富な実務経験、専門的学識、高等の専門的能力、豊かな創造性⇒複合的な問題を発見して解決できる技術者
- 複数の技術分野を通して分野全体を俯瞰できる技術者
- 技術者を適確に指導できる技術者
- 国内トップレベル、国際的に通用する技術者

參考資料

平成29年度の月刊PE（月刊技術士掲載記事）

号	月刊PEタイトル
2017. 4	• 新たな技術者倫理教育に向けて
2017. 11	• 女川原子力発電所の事例に学ぶ（部会CPD関連）
2017. 12	• 福島高等学校スーパーサイエンス部放射線班として東人大震災後の取り組みで学んだこと（部会CPD関連）
2018. 1	• 原子力・放射線部門の活動と将来展望
2018. 2	• 島根原子力発電所 機器故障予兆監視システムの開発について（部会員から）
2018. 4	• VR技術を応用した福島第一原子力発電所の廃止措置への挑戦（部会CPD関連、部会準会員から） • 原子力・放射線部門における技術士の認知度向上と技術士増に向けた取り組み
関連	
2017. 10	• 福島が問う新しい「技術の安全」 越智小枝氏

「過去10年を振り返っての今後の10年の活動方針（H26/6）より

〔制度活用が期待通りでない原因〕

- 有資格者数の絶対数の不足（外的、内的要因）
 - ～技術士資格活用を制度化できる状況にない
- 技術士資格の認知度・認定度の不足（外的、内的要因）
 - ～組織内において技術士が高い技術力・倫理性を有するとの評価を得ていない
 - ～一般に対し技術士資格の知名度が低く技術士資格の活用がセールスポイントにならない
- 部会・個人の努力不足（内的要因）
 - ～部会活動の目標が不明確、アクションプランがない
 - ～部門技術士個人の組織内外での存在感を示す努力不足
- 3. 1 1 事故の影響（外的要因）
 - ～原子力事業の停滞
 - ～原子カムラへの社会の不信
- 許認可体制の壁（外的要因）
 - ～審査・検査の第3者機関への移管が困難